

楽しみいろいろ、美術館



想像力や表現力を、形にすることができ。それは、美術の大きな魅力の一つです。形となった美術作品は時間やことばの壁を超えて、見る方の感性を刺激し、新たな作品を生み出し、多様な物の見方を教えてくれたりします。

平成十四年十二月一日、市制施行八十周年の市民の日に開館した市立美術館。「交流」をテーマとし、川越ゆかりの作家・作品を中心に展示するとともに、より多くの人が美術に親しめるよう、さまざまな取り組みを行っています。この記事では、初めて美術館に訪れた方・美術館の催しに参加した方と、特別展を企画した学芸員から、五周年を迎えた市立美術館のさまざまな楽しみ方を探ってみました。

問い合わせ：市立美術館・TEL 228-8080

相原求一朗の「すけそうだら詩(ノサップ)」は、魚が好きな功次くんのお気に入りです。この絵は12月24日(休)まで、相原求一朗記念室で展示しています。



市民の日の無料公開
市立美術館初体験で
美術に興味津々

みや しま よう こ
宮島陽子さん(右・35歳・的場)
啓輔くん(左・8歳)
功次くん(中・5歳)

「市立美術館は初めてです。作品が何を描いているのか考えながら見るのは楽しいですね。きれいな物を見るのは好きなので、今度は友人とゆっくり見てみたいです」と陽子さん。館内の作品を見終わったあと、タッチアートコーナーを楽しんだ啓輔くんと功次くん。啓輔くんは「ぼくは金ピカの絵がいいと思う。タッチアートコーナーもおもしろいし、また来てみたいな」。功次くんは「魚の絵がよかった。楽しかったよ」。

一期一会にちなみ、1枚の絵との出会いを大切にしたい気持ちを表すことを意味する造語「一期一絵」。今回参加した皆さんの「一期一絵」で人気を集めたのは、ちょうど季節的にふさわしかった小茂田青樹の「秋晴」。

この絵は12月24日(休)まで、常設展示室で展示しています。

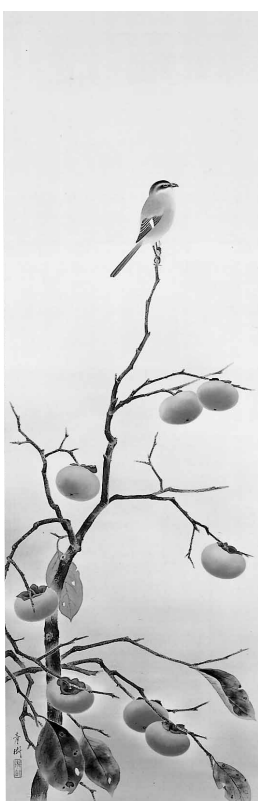
11月10日に行われた「団塊ツアー」に参加した皆さん

市立美術館長が館内を案内するこのツアーは、7月から毎月1回行われました。この日は15人が参加し、1時間半ほどかけて常設展示室と相原求一朗記念室を観覧しました。今まで毎回参加している方は「親しみやすい説明が好きです。とても熱心なので、自然と引き込まれてしまいますね。話を聞いていると、美術鑑賞のしかたが少しずつわかったような気がします。同じ絵でも、その日の気分などで全然違う印象を受けたりするのがおもしろいですね」。初めて参加した方は「美術が身近になった気がします。学芸員が説明するツアーもあるそうなので、ぜひ参加してみたいです。今後は、絵が作られた背景や作者の思いを、館長や学芸員が物語のように解説する場も作ってほしいですね」。

説明を聞きながら
美術を楽しむ



常設展示室では、展示中の絵を1枚ずつ解説。参加した皆さんは熱心に聞き入っていました。





長江晴楼図（埼玉県立近代美術館所蔵）



折井学芸員お気に入りの1枚は、出山釈迦図（泉屋博古館分館所蔵）。髪の毛1本1本にいたるまでの細かい描写が特徴です。左記の特別展で展示します。

学芸員が語る
特別展の楽しみ方

開館5周年記念特別展
「没後100年 橋本雅邦」
を担当している
折井学芸員に聞きました

この特別展は2年ほど前から準備を進めました。日本画は一度展示すると1年近く休ませなければならぬほど、管理が難しい物です。そのため各美術館との出品交渉、苦勞が多くありました。

これだけの数の雅邦の作品を展示するのは、18年ぶりです。生前の評価は高かった雅邦も、戦後は評価が落ちてしまい、今では名前を知らない方も多いと思います。線で描く伝統的な日本画と、明暗で描く西洋画を融合させ、新しい日本画の世界を切り開いた雅邦。確かな筆線と、濃淡による空間表現の巧みさを合わせ持つ雅邦の魅力を、この特別展でご確認ください。

開館5周年記念
特別展

没後100年 橋本雅邦

1月12日(土)～3月9日(日)

休館日＝月曜日、1月15日(火)・2月12日(火)
(1月14日(祝)・2月11日(祝)は開館)

橋本雅邦は、明治期の日本画壇において主導的な役割を果たした画家です。江戸幕府の御用絵師・狩野派に学んで基礎を身に付けた雅邦は、松平周防守家の絵師であった父を継ぎ、慶応2年（1866）から明治2年（1869）まで、川越藩士の身分でした。明治30年（1897）には、初代川越町長・岡田秋業などが発起人となって「画宝会」を組織し、雅邦を支援するなど、川越と雅邦は深いつながりがありました。

今回は、絵画約70点と資料類約10点を展示。現存する代表作を通して雅邦の功績をあらためて振り返ると共に、「画宝会」の実態とその意義にも迫ります。なお、作品保護のため、会期中に展示替えを行います。

開館時間…午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

観覧料…600円（480円）▶大学生・高校生＝400円（320円）▶中学生以下・障害者手帳所持者＝無料

*（ ）内は20人以上の団体料金です。なお、特別展の観覧料で、常設展示も観覧できます。

*この特別展を観覧した方は、チケット半券を提示すれば同特別展会期中にかぎり観覧料が2割引き（480円）になります。また、和服で来館された方も2割引きになります（重複割引は不可）。

*関連事業については、12月25日発行の広報川越でお知らせします。

市立美術館鑑賞定期券

E-MIRU-CA（エミルカ）誕生！

12月18日(火)から販売開始します

市民の皆さんが美術と接する機会を増やすために、市立美術館鑑賞定期券を試行販売します。発行日から1年間、何度でも市立美術館のすべての展示を観覧することができます。通常、常設展は1回200円、特別展は1回400円～600円の観覧料のため、特別展開催期間中に観覧すると、4回目以降はお得になります。絵を見るカード「エミルカ」で、美術鑑賞を生活の一部にしてみませんか。

販売期間…12月18日(火)～5月31日(土)

販売価格…1,600円▶大学生・高校生＝800円